

別紙様式 1

令和 8 年度昭和中学校区研究推進計画

校番 (1 6) 呉市立昭和中学校

校長名 浮田 秀樹

- 1 学校教育目標
自ら伸びる みんなで伸びる
- 2 目指す児童生徒像
 - ・学習や体験したことを生かして学ぶ児童生徒
 - ・自ら考え、判断し、自分の言葉で表現する児童生徒
 - ・自他を大切にし、自らかかわり合う児童生徒
- 3 育成を目指す資質・能力 (具体の姿)

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働する力
(中二・三年) 後期	現実の課題や新たに生じた課題等を解決するための、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている。	多面的・多角的に考察し、論理の展開の仕方や表現の仕方などを工夫して、効果的に表現することができる。	目標を明確にし、課題解決に向けて、見通しをもって、協働的に取り組み、学びを自己の生き方につなげることができる。
(五・六・中一年) 中期		複数の事柄や資料などを関連付け、根拠をもとに、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	自ら課題意識をもち、多様なメンバーと協働して課題を解決しようとし、学びの価値を考えることができる。
(三・四年) 前期		自分の立場や考えを明確にし、複数の事柄や資料について、比較、分類、関連付けてまとめて表現することができる。	課題解決のために身近な対象に進んで働きかけながら、ねばり強く取り組み、その成果から自分のよさや可能性に気付くことができる。
(一・二年) 前期		自分の思いや考えを明確にし、複数の事柄や資料について、比べたり分けたり、例えたりして順序よく説明することができる。	家族や友達、地域の人など身近な対象に進んでかかわり、意欲的に学習したり、生活したりして自分のよさや可能性に気付くことができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

「自他を大切にし、主体的に学ぶ児童生徒の育成」

～「あたたかい集団づくり」を基盤とした「考える授業づくり」を通して～

(2) 設定理由 (校区の児童生徒の課題分析等)

本中学校区では、平成 3 0 年度から「自他を大切にし、主体的に学ぶ児童生徒の育成 ～聴いて考えてつなげる授業づくりを通して～」を研究主題として、学力向上と自尊感情を高める実践を重ねてきた。また、令和 8 年度には、副題を「～『あたたかい集団づくり』を基盤とした『考える授業づくり』を通して～」に変更し、互いに認め合い、高め合うことがで

きる人間関係を基盤として、児童生徒が安心して学び合うことのできる、考える授業づくりの研究に取り組んでいく。

昨年度までに行った児童生徒アンケートの設問項目に対する肯定的回答は、次のとおりである。

項目	目標値	R7	R6
すぐにできそうにない問題でも、最後まで取り組もうとしています。	95%	92.8%	87.3%
授業中、友達の考えや意見を反応しながら聴いています。	95%	94.2%	87.4%
授業中、相手に自分の考えが伝わるように話しています。	95%	91.3%	87.5%
友達は、あなたの意見を受け入れてくれたり、分からないところを教えてくれたりします。	95%	96.2%	92.4%
自分には良いところがあります。	90%	88.6%	82.9%

この結果から、ほとんどのアンケート項目において、目標値に到達してはいないが、どの項目においても、昨年度の結果よりも高くなっていることが分かる。学習に意欲的に取り組み、粘り強く積極的に学習したり、あたたかな聴き方・やさしい話し方を意識したりしている児童が増えていると考えられる。

特に、「友達は、あなたの意見を受け入れてくれたり、分からないところを教えてくれたりします。」という項目は、達成目標を超える96.2%の児童生徒が肯定的に回答しており、他の児童生徒とよりよく関わり合おうとする姿勢がうかがえる。

このことから、昨年度までの取組である「あたたかい集団づくり」に関しては、一定の成果を上げていると考えられる。しかし、「自分には良いところがあります。」という項目においては、昨年度より結果は高くなっているものの、肯定的に回答した児童の割合は依然として9割に満たない結果となった。他者から認められる場面が少なくなってきたり、自分の良さについて客観的に捉えることが難しいことが原因として考えられる。異学年交流の場や地域との関わりを増やすことで、他者に認められたり自分が学校や地域の役に立っていると実感したりする経験を増やしていく必要がある。

また、小学校で実施した標準学力調査では、国語科および算数科において、正答率30%未満の児童の割合を5%以下にするという目標に対し、国語科では4.1%（前年度比+1pt）、算数科では6.1%（前年度比+0.4pt）という結果であった。いずれも前年度より正答率30%未満の児童生徒が増加している。

さらに、中学校で実施した実力テストでは、正答率30%未満の生徒の割合が、国語科で28.8%（前年度比+8.1pt）、数学科で46.7%（前年度比+7.7pt）となった。いずれも増加幅が大きいことが懸念される。依然として、文章を読み理解する力や、数学の基礎的な知識・技能の定着が十分でない生徒が多く存在している。

以上のことから、本中学校区の児童生徒に共通する課題として、①互いに認め合い、高め合うことのできる人間関係を通して、一層自己有用感を高める必要があること②基礎的・基本的な知識や技能の定着を図っていくことの2点が挙げられる。

そこで本年度は、昨年度の研究の上に立って、「考える授業づくり」では授業の内容を定着させて精緻化できるように振り返りを充実させることで、知識や技能の定着を図っていく。合わせて「あたたかい集団づくり」では、本年度は認め合い高め合う集団を目指して、「やりきる三則」の確実な徹底や小中での児童生徒間連携を通して中学校区としての方向性をそろえて肯定的に他者とかがわりあえる風土を醸成させていく。この二つの教育活動を展開していくことで、自他を大切にし、主体的に学ぶ児童を育成することができると考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究仮説

「あたたかい集団づくり」を基盤とした「考える授業づくり」をしていけば、自他を大切にし、主体的に学ぶ児童生徒を育成することができると考えられる。

5 研究内容

(1) あたたかい集団づくり（あたたかな聴き方・やさしい話し方の徹底）

- 「やりきる三則」の徹底
 - ・「①整理整頓②返事・あいさつ③時間を守る」の3つを守ることで、安心して学ぶことのできる学校風土を醸成する。
- 「ほめる場・認め合う場・つなげる場」の設定
 - ・児童生徒をほめる場・認め合う場の意図的な設定を行うことで、互いに認め合い、高め合うことができる人間関係づくりを推進する。
- 肯定的に他者とかわることで、認め合い、高め合う雰囲気醸成
 - ・「対話的・協働的な学び」を意図的に設定し、児童生徒が分からないことや間違えることを躊躇せず発言できる環境づくりに取り組む。
- 相手を意識した聴き方と話し方の指導
 - ・「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を示し、相手を意識した聴き方と話し方の指導を徹底する。
- 「異学年交流・小中合同での活動」の場の設定
 - ・縦割り班活動等の「異学年交流」や、「小6中1交流会」等の小中合同での活動を計画・実施し、児童生徒同士のつながりを深め、自己有用感を高める。
- 地域社会に貢献しようとする態度の育成
 - ・コミュニティースクール等の活用から地域人材を積極的に登用し、児童生徒の地域社会に関わり貢献しようとする態度を育てる。

(2) 考える授業づくり（「昭和学びのスタイル」を通じた全員参加型の授業）

※◎は本年度重点項目

- 一人一人が気付き、問いをもたせる導入の工夫
 - ・教師が教材への理解を深めていき、実生活と結び付けることで、前向きに授業に取り組もうとする動機付けを行う。
 - ・「聴いて考えてつなげる授業づくり」を実践し、児童生徒が主体的に学習に取り組ませる。
- 児童生徒同士のかかわりを促すための、問いの工夫と「多様な視点」の活用
 - ・児童生徒の発言を予測し、授業展開の中で関わり合いで深めることができるような問いを設定しておく。
 - ・調べて情報を収集したり、他者の考えに出会い、多様な視点で話し合ったりする場を設けることで、「対話的・協働的な学び」につなげる。
- ICT等を活用し、個々の課題に合わせた指導の工夫
 - ・キュビナやロイノート等を活用した「個別最適な学び」を実践し、主体的に学習に取り組む児童生徒を育成する。
- ◎知識の定着や広がり、深まりを意識した振り返り指導の工夫
 - ・児童生徒が自分の学びを見つめ、次の学びへと繋げられるように振り返りの視点を明確にする。

(3) 本年度重点項目への取組

本年度重点項目の振り返りでは、以下の点について各教科で取組み、成果や課題を共有する。

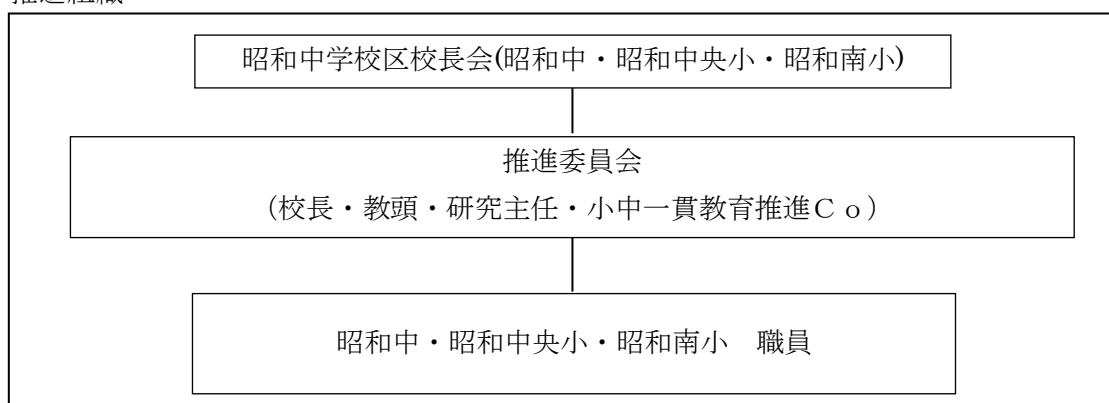
- 本時の学びを「少し長めの文章」で振り返る
- 本時の学びを再確認する適応題の工夫
- 次時へのつながりを意識した振り返り
- 授業の導入で前時の振り返りを取り上げ、学びのつながりを意識させる

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① <u>集団づくり</u> 児童生徒の学習 や他者とのかかわ り合いに関する 意識の向上	学校評価アン ケート	(1)「聴く」に関する 質問項目 (2)「話す」に関する 質問項目 (3)「他者とのかかわ り合い」に関する 質問項目 (4)「自己有用感」に 関する質問項目	(1) 94.2% (2) 91.3% (3) 96.2% (4) 88.6%	(1) 95% (2) 95% (3) 95% (4) 90%
② <u>授業づくり</u> 学力調査等にお いて、正答率3 0%未満の児童生 徒の割合	標準学力検査 実力テスト	小学校では国語・ 算数5%以下 中学校は国語・ 数学10%以下	小学校 国語科：4.1% 算数科：6.1% 中学校 国語科：28.8% 数学科：46.7%	小学校では国 語・算数5% 以下 中学校では国 語・数学10% 以下
③ <u>主体性</u> 児童生徒の行動 や記述内容の変 容	児童生徒アン ケート	「課題に対する粘り 強さ」に関する質 問項目	92.8%	95%
④ <u>本年度重点項目</u> <u>(振り返り)</u>	児童生徒アン ケート	「振り返り」に関す る質問項目	—	95%

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等

(中→小)

- ・昭和中央小学校第5学年 算数科 (週2h実施)
- ・昭和中央小学校第6学年 算数科 (週2h実施)
- ・昭和南小学校第5学年 算数科 (週2h実施)
- ・昭和南小学校第6学年 算数科 (週2h実施)
- ・小6児童の把握と指導 (3学期実施)

(小→中)

- ・中学校第1学年補充授業 (夏季休業中)

イ 小学校教科担任制等

- ・なし

8 推進計画

月 日	内容
4月 上旬	○校内研修 ・昭和中学校区の取組の確認 ○小中一貫だより1号の発行（担当：幹事校 中央小） ○乗り入れ授業について打ち合わせ ○推進委員会① ・5月全体研修会の運営についての確認
6月 中旬	○推進委員会② ・7月全体研修会の運営についての確認 ・夏季全体研修会の運営についての確認
7月 上旬 中旬 下旬	○児童生徒アンケートの実施 ○授業研究・全体研修（昭和中学校） ○中学校第1学年補充授業
8月 上旬 下旬	○校内研修 ・全国学力・学習状況調査の結果について考察 ○全体研修（昭和中央小学校） ○教科会（国語・算数(数学)・質問紙） ○推進委員会③ ・全国学力・学習状況調査指導方法の等の改善計画について ・10月全体研修会の運営についての確認
9月 上旬	○小中一貫だより2号の発行（担当：昭和中）
10月 下旬	○授業研究・全体研修（昭和中央小）
11月 下旬	○推進委員会④ ・1月全体研修会の運営についての確認 ○小中一貫だより3号の発行（担当：中央小）
12月 上旬	○児童生徒アンケートの実施 ○標準学力テストの実施（昭和中央小・昭和南小）
1月 上旬 下旬	○学力テストの実施（昭和中） ○授業研究・全体研修（昭和南小） ○推進委員会⑤ ・今年度のまとめに向けて進捗状況把握
2月 下旬	○標準学力調査の分析・考察 ○推進委員会⑥ ・児童生徒アンケート及び標準学力調査の結果の交流 ・課題の分析と来年度の取組についての確認、年間の推進計画の確認 ・年間のまとめ、来年度の基本方針及び計画の確認 ○小中一貫だより4号の発行（担当：南小）
3月 上旬	○小6中1交流会

※各校の研修会には、随時参加する。

9 その他

小中一貫だよりの発行

1学期…1回（昭和中央小）、2学期…2回（昭和中、昭和中央小）、3学期…1回（昭和南小）

※ 研究構想図、カリキュラムマップを添付する。